



■ 三松 三郎（みまつ さぶろう）

自然災害を数々体験した事、昭和新山の観測と保護に生涯をかけた
三松正夫の二代目として、特異な自然観をベースに地域防災を語る。

略歴

昭和 12 年大阪府吹田市に生まれ、京都に転居。高校卒業後北海道に憧れ、帯広畜産大学獣医学科に進学。卒業後民間会社に勤務。

この間に三松正夫と出会い、彼の火山への思いを知り、三松家を継ぐ。昭和 43 年、養父母と共に暮らすため壮警に戻る。昭和新山生成に関わる資料展示室を開設。平成元年に三松正夫記念館と改称、現在に至る。

趣味

登山・旅行・火山関係図書・写真・資料コレクター

専門

台風・豪雨洪水・福井地震・チリ津波・1977-82 有珠、2000 年有珠噴火等、内外の火山歴訪で得た体験的自然災害との共生論

主な活動履歴

1982 北海道市民大学公開講座

1983 壮警町子供郷土史講座火山学習を担当し現在に至る

1992～1995 昭和新山生成 50 周年記念事業実行委員、国際火山WSコンビーナ

2000 噴火復興策の一「エコ・ミュージアム」推進に尽力

2004 そうべつエコミュージアム友の会発足、代表を務める。

2008 エコミュージアムを日本ジオパーク認定に尽力
火山マイスター認定制度確立に尽力

2009 世界ジオパーク認定推進に尽力